【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第１区分
【発行日】平成27年11月12日(2015.11.12)

【公開番号】特開2014-71015(P2014-71015A)
【公開日】平成26年4月21日(2014.4.21)
【年通号数】公開・登録公報2014-020
【出願番号】特願2012-217753(P2012-217753)
【国際特許分類】
Ｇ０１Ｎ　31/22　(2006.01)
Ｇ０１Ｎ　31/00　(2006.01)
Ｇ０１Ｎ　33/24　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０１Ｎ　31/22　１２１Ｆ
Ｇ０１Ｎ　31/00　Ｑ
Ｇ０１Ｎ　31/22　１２２
Ｇ０１Ｎ　33/24

【手続補正書】
【提出日】平成27年9月18日(2015.9.18)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
吸液材が懸濁液中に浸される浸漬工程と、
前記浸漬工程で前記吸液材に吸い上げられた液中に含まれている溶質濃度が測定される測定工程
とを有することを特徴とする懸濁液中の溶質濃度測定方法。
【請求項２】
前記浸漬工程は、
吸液材と該吸液材に連接された溶質濃度測定部とを具備する溶質濃度測定装置の前記吸液材が懸濁液中に浸される工程であり、
前記測定工程は、
前記吸液材に吸い上げられた液が前記溶質濃度測定部に移行して測定される工程である
ことを特徴とする請求項１の懸濁液中の溶質濃度測定方法。
【請求項３】
前記吸液材は、ＪＩＳ　Ｐ　８１４１に準拠した方法による吸水度が３ｃｍ以上であることを特徴とする請求項２の懸濁液中の溶質濃度測定方法。
【請求項４】
前記懸濁液は、溶媒成分１００質量部に対し、粒径が１００μｍ以下の不溶性微粒子を３～３０質量部含む
ことを特徴とする請求項１～請求項３いずれかの懸濁液中の溶質濃度測定方法。
【請求項５】
前記懸濁液はＣｌ－を含有する
ことを特徴とする請求項１～請求項４いずれかの懸濁液中の溶質濃度測定方法。
【請求項６】

前記測定工程は、
溶質に感応し、該溶質の濃度毎に固有の変色又は発色を呈する検知用成分を含浸した検出用紙片、又は前記検知用成分が担持してなる検出用媒体を用いて行われる
ことを特徴とする請求項１～請求項５いずれかの懸濁液中の溶質濃度測定方法。
【請求項７】
前記測定工程は、
溶質に感応して変色又は発色を呈する検知用成分を含浸した検出用紙片、又は前記検知用成分が担持してなる検出用媒体が用いられ、前記紙片又は前記媒体中の変色又は発色部分の面積割合が求められることで定量される
ことを特徴とする請求項１～請求項５いずれかの懸濁液中の溶質濃度測定方法。